

実践行動学を終えて

新潟医療福祉大学医療情報管理学科・張国珍, 本間久文, 野水弘祐, 高橋直樹, 福島正巳, 東條猛

【背景】

H22 年度医療情報管理学科に入学した 1 年生 103 人を対象に、「基礎ゼミ」¹⁾の授業に実践行動学プログラム²⁾を組み入れて実施し、モチベーションの自己評価の変化を調べたので、その結果を報告する。

【方法】

今回実施する実践行動学のプログラムは「意欲的な心構え」と「自分の可能性を広げよう」2つのテーマに分けた(表1)。学生のモチベーションを調べるために、プログラムの実施中アンケート調査を3回行った(1回目:5月12日、「意欲的な心構え」の開始前,2回目:6月2日、「意欲的な心構え」の終了後,3回目:7月21日、「自分の可能性を広げよう」の終了後)。

表1. 「基礎ゼミ」と実践行動学の実施スケジュール

日付	テーマ
4/14~4/28	基礎ゼミの内容
5/12~6/2	実践行動学「意欲的な心構え」
6/9~6/30	基礎ゼミの内容
7/7~7/21	実践行動学「自分の可能性を広げよう」
7/28	基礎ゼミの内容

モチベーションに関するアンケートは6カテゴリ(① 学部・学科の適性, ② コミュニケーション, ③ 環境適応, ④ 人間関係, ⑤ 学業遂行, ⑥ 思考・行動)24 質問項目で構成され,各質問について学生に自己採点してもらった。各カテゴリ内の質問項目の合計点数はそのカテゴリの得点とした。

3 回の調査において欠損なくデータとして回収できたのは 70 人(男子 22 人, 女子 48 人)であった。モチベーションの6カテゴリの得点の比較には,反復測定による分散分析及び Bonferroni 法により多重比較を行った。

【結果と考察】

6カテゴリの平均得点の比較結果を図1に示す。1回目は入学後1か月半での調査で,ある程度仲間意識ができてはじめているため,クラス全体として,人間関係(協調指向)と学部・学科適性指向が強くてた。一方,学業遂行指向が弱いという結果も出てきた。特に,「大学の友人との交流を楽しんでいる」という項目に対する自己評価は高かった,「授業時間が修了しても,図書館や自宅で課題等をやりとげている」,「自宅学習は計画的に行っている」という項目には自己評価は低かった。これは本学科の学生の特徴ともいえるだろう。

2回目は1回目より3カテゴリ(②コミュニケーション, ⑤学業遂行, ⑥思考・行動)の平均値(図1)が高い傾向が見られた。3回目の調査は基礎ゼミ4コマ,実践行動学プログラム3コマの後で行ったこともあり,楽しいゼミ活動との相乗効果で,①学部学科適性以外の5つのカテゴリにおいて高い自己

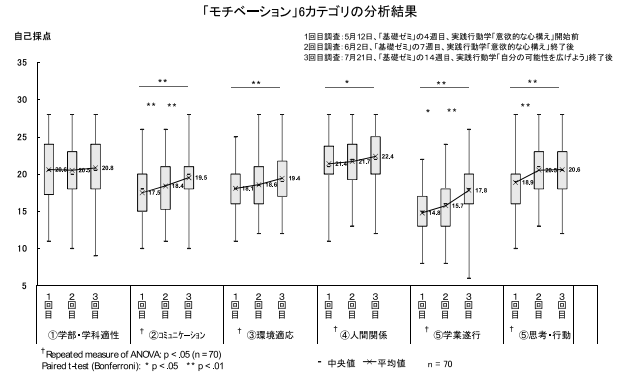


図1.モチベーションの6カテゴリの調査結果。診断が得られた。その上,3回の調査とも低い水準にあることが窺えた⑤学業遂行指向については,3回目の調査時期は定期試験の1週間前でもあるため,1回目に比べ1割以上高い自己評価点数となった。

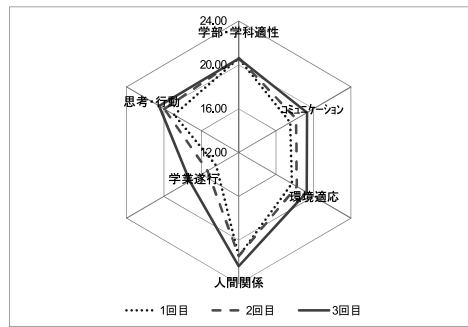


図2.モチベーション6カテゴリの変化。

3 回の調査のレーダーチャート(図2)から,僅かではあるが,調査が進むにつれ,1回目より2回目,2回目より3回目のほうが学生の自己評価は高くなったことが分った。これらの結果から,入学してから4か月の間に学生のモチベーションに意義ある変化が見られたと考えられる。ただし,調査の時期や学生の態度などの外部要因によって,アンケートの回答が影響される。そのため,今回の調査では学生のモチベーションに一番影響する要因を特定することができなかつた,今後,より客観的に行動変容の要因を検討するには,特定のプログラムを受講する学生群と受講しない学生群の相違を検証し,さらなる調査を行う必要がある。

【結論】

今回の調査では,学生のモチベーションの変化の一番の要因を特定するまで至らなかつたが,入学してから学生のモチベーション,特に学業をやりぬく指向には有意義な変化が見られたことが分かつた。

【文献】

- 1) 授業概要(シラバス)平成22年度版(CD-ROM).新潟医療福祉大学.2010.
- 2) <http://www.jissenkoudougaku.jp/program.html>.

謝辞 実践行動学プログラムの実行にあたり,実践行動学研究所の五十嵐正博専務理事,白倉正典氏に多大なご協力を頂いた。ここに記して謝意を表したい。